



アートで社会を考えるオンライン講座



多様なわたしたちが居合わせる場を考える3つの視点

Youtube 配信 ※会場でも直接ご聴講いただけます

「たいけん美じゅつ場 VIVA」は、生活インフラである駅ビルのアートセンターであり、誰もが自由に過ごし、居合わせる駅ビルの空間です。VIVAはアートワークショップやレクチャー、展覧会、上映会などが開催される一方で、友人と気ままにおしゃべりをしたり、勉強や仕事に集中するなど、さまざまな使い方が同居しています。場所自体に中心を持たせず、多面性をつくることが価値観や立場を固定化しない場づくりにつながるのではないかと考えています。このオンライン講座では、場の持っている役割を広げたり、少しズラしたりしてその人らしくいられる場やウェルビーイングな状態をつくるゲストを招き、それぞれの活動の視点から多様性を育むまちの居場所についてレクチャーを配信します。

第1回 「支援」の周りにつくる居場所

2025年10月12日(土)

11:00-14:00 みんなでつくる教材展(現地のみ)

14:00-16:00 オープンレクチャー(配信あり)

加藤甫(写真家/Studio oowa 主宰)・北野ちゆき(特別支援学校教諭)

第2回 人と人をつなぐ、「あそび」のデザイン

2025年12月7日(日)

13:00-14:00 ゆるスポーツと発明品を体験しよう(現地のみ)

14:00-15:30 オープンレクチャー(配信あり)

高橋鴻介(発明家/スポーツクリエイター)

第3回 壁の内と外をつなぐアートコミュニケーションの試み — 刑務所アート展とみとびらの事例から

2026年1月11日(日)

14:00-15:30 オープンレクチャー(配信あり)

風間勇助(奈良県立大学講師/Prison Arts Connections 共同代表)

松尾優子(東京藝術大学音楽環境創造科3年/みとびらサポーター)

本講座はアート・コミュニケータ「トリバア」の実践講座アクセスコースを一般公開するものです

10代から70代まで幅広い世代が活動する「トリバア」はVIVAを拠点にアートと人、人と人をつなぐコミュニケーションを生み出しています。講座や実践を通じて、それぞれの「自分らしさ」を発見し、学びを共有することで、新たな価値と文化を社会にひろげていきます。トリバアは毎年3月頃から募集します。

参加費無料・要申込

レクチャーはYouTubeにて生配信を行います。配信当日24時までご覧いただけます。右コードよりお申込みいただいた方に、全3回の配信リンクをお送りいたします。

お申込フォーム



主催：取手市、東京藝術大学、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社アトレ
共催：共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点
企画運営：NPO 法人取手アートプロジェクトオフィス



お問合せ たいけん美じゅつ場 VIVA
〒302-0014 茨城県取手市取手中央町2-5 アトレ取手4階
営業時間：10:00-18:00 水曜、第一日曜定休
TEL：0297-85-5558 MAIL：viva-info@toride-ap.gr.jp

本講座は、JST 共創の場形成支援プログラム「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」(JPMJPF2105)の支援を受けたものです

第1回 「支援」の周りにつくる居場所

2025 年 10 月 12 日（土） 11:00-14:00（展示） 14:00-16:00（レクチャー）

横浜市にある”Studio oowa”は、社会がまだことばと認識できていない行動やアクションを探し、尊重・共有することでオリジナルのコミュニケーションを模索する活動を行なっています。今回は支援の周りで”面白い”場づくりと「特別支援教材」が生み出すコミュニケーションについてお話を伺います。会場では教科書のない特別支援学校で、児童ひとりひとりのために先生たちが手作りした子どもたちの過ごす場や特別支援教材を体験できます。



加藤甫
(写真家 / Studio oowa 主宰)

アーティストやクリエイターとの協働プロジェクトや企業・福祉施設などの中長期プロジェクトに伴走する撮影を数多く担当している。2022 年横浜に Studio oowa をオープン。自身のアートプロジェクトとして知的障がいのある子どもたちとアーティストとの協働プロジェクトの企画や居場所づくりなど、場のひらきかたを模索している。



北野ちゆき
(特別支援学校教諭)

特別支援学校教員として多くの子どもたちと出会う。「学校をワクワクに」「子どもから学ぶ」がモットー。特別支援教育ならではのワクワクを広げるために Instagram (@chiyu_ki) での情報発信や、横浜市の放課後等デイサービスのアドバイザーなど、地域や福祉にも関心の幅を広げている。特別支援教育をライフワークとする 1 児の母。

第2回 人と人をつなぐ、「あそび」のデザイン

2025 年 12 月 7 日（日） 13:00-14:00（体験会） 14:00-15:30（レクチャー）

「あそび」は面白さ、楽しさといった根源的な喜びがある行為であると同時に、それに参加する人の間にコミュニケーションや対話が自然と生まれる営みでもあります。もし「あそび」によって、人をゆるやかに、つながりへと誘うことができたなら。きっと、そこには新しい人との関わり方がたくさん生まれてくるはずです。

このレクチャーでは、年齢・性別・運動神経に関わらず誰もが楽しめる『ゆるスポーツ』のスポーツクリエイターである高橋鴻介さんをお迎えし、人と人をつなぐ接点の作り方や、そのアプローチについてお話を伺います。

また、会場では高橋さんの様々な発明品を実際に体験できます。ぜひ、レクチャーと合わせてご参加ください。



高橋鴻介（発明家 / スポーツクリエイター）

1993 年、東京生まれ。『接点の発明』をテーマに、人と人の中につながりを生み出すためのプロダクトを制作している。慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、電通に勤務。その後、2022 年に独立。主な発明品に、点字と文字が一体になった書体『Braille Neue』、触覚ゲーム『LINKAGE』、オンラインで競い合える『Facial Sports』など。

第3回 壁の内と外をつなぐアートコミュニケーションの試み — 刑務所アート展とみとびらの事例から

2026 年 1 月 11 日（日） 14:00-15:30

刑務所は物理的にも、心理的にも、そして制度的にも壁のある見えない場所です。アートは刑務所においてどのような役割を持てるでしょうか。風間さんが関わる刑務所アート展は、刑務所から届く表現を介して、壁の内と外をつなぐ対話の回路をひらこうと試みています。松尾さんがサポーターとして関わるみとびらは、法務省・アパレル産業・東京藝術大学 DOOR プロジェクトの3者が連携して若年女性受刑者が主な作り手となったファッションブランドを立ち上げています。壁を超えるアートコミュニケーションの可能性と困難を二人の登壇者とともに考えます。



風間勇助
(奈良県立大学講師 / Prison Arts Connections 共同代表)

1991 年静岡生まれ。奈良県立大学地域創造学部講師、一般社団法人 Prison Arts Connections 共同代表、NPO 法人 CrimelInfo 副代表、「アート / ケア / 文化政策」研究会メンバー。文化政策・アートマネジメントの観点から、刑事司法分野におけるアートの役割をさぐる実践と研究を重ねる。



松尾優子
(東京藝術大学音楽環境創造科3年 / みとびらサポーター)

東京藝術大学音楽環境創造科 3 年。プロジェクトアートプロデュース熊倉研究室在籍。研究室で 1DAY パフォーマンス表現街の学生スタッフを担う他、みとびらを通して若年女性受刑者と社会を繋ぐ試みに関わる。アートを介したものと人の結びつきや共生に関心がある。